

事業名 CD	0106020201	松くい虫防除事業（補助）
細分化した事業名		松くい虫防除事業
事業担当課室 CD	300100	農林課
		整理コード

〈事務事業の位置づけ〉

第6次長期総合計画での目的体系	大項目	魅力あふれるまちづくり	
	中項目	環境と調和した農林業の振興	
	小項目	農林業の振興	
関連する個別計画等		根拠条例等	森林病害虫等防除法
関連する事業			

〈事務事業の概要〉

事業の目的 (何のためにするのか)	松くい虫をはじめとする森林病害虫等の早期かつ徹底的に駆除し、その蔓延を防止し、将来の森林病害虫等の発生を抑制するという予防措置をはかりつつ森林の保全を図るため。
事業の対象 (誰・何を対象にするか)	森林病害虫等防除法に基づく市内の松林
これまでの改善経過	松くい虫被害対策実施計画エリア見直し
事業の手段 (どんなやり方(手法)で)	<p>〈実施・運営方法〉 <input type="checkbox"/>市 <input checked="" type="checkbox"/>委託 <input type="checkbox"/>補助金 <input type="checkbox"/>その他()</p> <p>① 市民・地区の意見等を参考に松くい虫の被害木の調査を行う。 ② 調査後、公益的見地から判断し森林の計画区分に対応して、伐採を行う。 ③ 伐採した被害木に対し、薬剤処理または、くん蒸処理を行う。</p>
事業の成果 (どのような状態にしたのか) (どのような効果を得るのか)	拡大している松くい虫等森林病害虫による被害を拡大させないようにする。

〈投入費用及び従事職員の推移〉

		20年度	21年度	22年度
A	事業費 (千円)	24,512	22,800	23,096
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金	16,315	16,543	16,738
	市債			
	その他			
	一般財源	8,197	6,257	6,358
B	担当職員数(非常勤 職員 E) (人)	0.00 0.20	0.00 0.20	0.00 0.23
C	人件費(平均人件費 × E) (千円)	1,382	1365	1546
D	総事業費(A+C) (千円)	25,894	24,165	24,642
* 参考	H22)市民1人当りの事業コスト	819 円	H22)市民1人当りの行政サービス費用	599,027 円

注 1)担当職員数には、1年間に当該事業に携わった職員数(職員と非常勤嘱託職員を区分)を他事業と按分して記載してあります。

注 2)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、20年度(6,909千円)、21年度(6,823千円)、22年度(6,719千円)を使用しています。

注 3)一般財源とは用途の制限のない財源で、市税(市民税・固定資産税など)、地方交付税(市町村均衡を図るための交付金)などを言います。

〈事業を数字で分析〉 この欄では、事業の目指すべき方向を分りやすく示すため、数値指標を設定し実績数値を記入しています

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			20年度	21年度	22年度
活動指標	処理面積	処理面積 (ha)	421.84	475.11	234.65
	処理材積	薬剤処理材積 (m3)	1,189.00	800.00	770.00
		<ん蒸処理材積 (m3)	480.00	580.00	582.00
成果指標	伐採木本数	伐採木本数 (本)	1,952	1,719	1,697
効率指標	材積 1 m3 当りの経費 (算出式数値)	総事業費 (千円) / 処理材積 (m3) (24,512 千円 / 1,669m3)	14.60	16.5	17.08
	面積 1 ha 当りの経費	総事業費 (千円) / 処理面積 (ha) (24,512 千円 / 424.84ha)	58.10	47.98	98.42

〈事業を自己評価〉

妥当性 (事業の手段・活動は妥当ですか)	<input checked="" type="checkbox"/> A 妥当である <input type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない 季節により有効な単価の安い伐倒薬剤処理を増加し、防除に取り組んでおり、土地所有者では駆除しきれない部分を防除の観点から公益的な立場で処理を実施している。		
成果 (意図した成果が上がっていますか)	<input checked="" type="checkbox"/> A 上がっている <input type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない 公益上防除すべき松林を中心として防除ができおり、被害による伐倒数が減少している。		
効率性 (コストを見て効率的ですか)	<input checked="" type="checkbox"/> A 効率的である <input type="checkbox"/> B ほぼ効率的である <input type="checkbox"/> C 効率的でない 1立米あたりの事業費が減少している。		
総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成		
今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 重点化 (コストを集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 手段の改善 (実施主体や実施の手段を代える) <input type="checkbox"/> 効率化 (結果単位あたりのコストを下げる) <input type="checkbox"/> 簡素化 (事業の規模や内容を縮小する) <input type="checkbox"/> 統廃合 (他の事業と統合する、または廃止する) <input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり		
改善・改革案	改善・改革の概要・方向性 (いつまでに、どういう形で具体化するのか)		
	(1) 中長期的 公益的な価値のある松林の防除に努め、被害の対象となる民有林については、商品価値のある檜等へ移行する。	(2) 24年度 公益上防除すべき松林を中心に防除していき被害拡大を防止する。	(3) 23年度 公益上防除すべき松林を中心に防除していき被害拡大を防止する。
	22年度の改善計画 公益上防除すべき松林を中心に防除していき被害拡大を防止する。		
22年度の改善結果 公益上防除すべき松林を中心に防除し、被害拡大を防止出来ている。			
市民(地域)や民間、他官庁との役割分担(市民との協働の視点などから考えられること) 国、県の補助を受け民有林を対象に事業を行なうため市で実施するのが妥当である。			
課長所見	自然環境、景観保全維持のためには、際限のない事業に思われるが、後先のコストがかからないように計画的に処理する必要がある。今後は、樹種転換事業を導入して効果を高める必要がある。		

事業名 CD	0106020201	松くい虫防除事業（単独）
細分化した事業名		松くい虫防除事業
事業担当課室 CD	300100	農林課
		整理コード*

〈事務事業の位置づけ〉

第6次長期総合計画での目的体系	大項目	魅力あふれるまちづくり	
	中項目	環境と調和した農林業の振興	
	小項目	農林業の振興	
関連する個別計画等		根拠条例等	森林病害虫等防除法
関連する事業			

〈事務事業の概要〉

事業の目的 (何のためにするのか)	松くい虫をはじめとする森林病害虫等の早期かつ徹底的に駆除し、その蔓延を防止し、将来の森林病害虫等の発生を抑制するという予防措置をはかりつつ森林の保全を図るため。
事業の対象 (誰・何を対象にするか)	森林病害虫等防除法に基づく市内の松林
これまでの改善経過	松くい虫被害対策実施計画エリア見直し
事業の手段 (どんなやり方(手法)で)	<p>〈実施・運営方法〉 <input type="checkbox"/>市 <input checked="" type="checkbox"/>委託 <input type="checkbox"/>補助金 <input type="checkbox"/>その他()</p> <p>① 市民・地区の意見等を参考に松くい虫の被害木の調査を行う。 ② 調査後、公益的見地から判断し森林の計画区分に対応して、伐採を行う。 ③ 伐採した被害木に対し、薬剤処理または、くん蒸処理を行う。</p>
事業の成果 (どのような状態にしたのか) (どのような効果を得るのか)	拡大している松くい虫等森林病害虫による被害を拡大させないようにする。

〈投入費用及び従事職員の推移〉

		20年度	21年度	22年度
A	事業費 (千円)		909	960
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	市債			
	その他			
	一般財源		909	960
B	担当職員数(非常勤 職員 E) (人)		0.00 0.20	0.00 0.23
C	人件費(平均人件費 × E) (千円)		1,365	1,545
D	総事業費(A+C) (千円)		2,274	2,505
*参考	H22)市民1人当りの事業コスト	127 円	H22)市民1人当りの行政サービス費用	599,027 円

注 1)担当職員数には、1年間に当該事業に携わった職員数(職員と非常勤嘱託職員を区分)を他事業と按分して記載してあります。

注 2)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、20年度(6,909千円)、21年度(6,823千円)、22年度(6,719千円)を使用しています。

注 3)一般財源とは使途の制限のない財源で、市税(市民税・固定資産税など)、地方交付税(市町村均衡を図るための交付金)などを言います。

〈事業を数字で分析〉 この欄では、事業の目指すべき方向を分りやすく示すため、数値指標を設定し実績数値を記入しています

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			20年度	21年度	22年度
活動指標	処理面積	処理面積 (ha)		34.18	22.1
	処理材積	薬剤処理材積 (m3) くん蒸処理材積 (m3)		45.42	38.62 19.51
成果指標	伐採木本数	伐採木本数 (本)		35	87
効率指標	材積 1 m3 当りの経費 (算出式数値)	総事業費 (千円) / 処理材積 (m3) (960 千円 / 58.13m3)		20.01	16.51
	面積 1 ha 当りの経費	総事業費 (千円) / 処理面積 (ha) (960 千円 / 22.1ha)		26.59	43.44

〈事業を自己評価〉

妥当性 (事業の手段・活動は妥当ですか)	<input checked="" type="checkbox"/> A 妥当である <input type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない 季節により有効な単価の安い伐倒薬剤処理を増加し、防除に取り組んでおり、土地所有者では駆除しきれない部分を防除の観点から公益的な立場で処理を実施している。		
成果 (意図した成果が上がっていますか)	<input checked="" type="checkbox"/> A 上がっている <input type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない 公益上防除すべき松林を中心として防除ができおり、被害による伐倒数が減少している。		
効率性 (コストを見て効率的ですか)	<input checked="" type="checkbox"/> A 効率的である <input type="checkbox"/> B ほぼ効率的である <input type="checkbox"/> C 効率的でない 1立米あたりの事業費が減少している。		
総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成		
今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 重点化 (コストを集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 手段の改善 (実施主体や実施の手段を代える) <input type="checkbox"/> 効率化 (結果単位あたりのコストを下げる) <input type="checkbox"/> 簡素化 (事業の規模や内容を縮小する) <input type="checkbox"/> 統廃合 (他の事業と統合する、または廃止する) <input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり		
改善・改革案	改善・改革の概要・方向性 (いつまでに、どういう形で具体化するのか)		
	(1) 中長期的 公益的な価値のある松林の防除に努め、被害の対象となる民有林については、商品価値のある檜等へ移行する。	(2) 24年度 公益上防除すべき松林を中心に防除していき被害拡大を防止する。	(3) 23年度 公益上防除すべき松林を中心に防除していき被害拡大を防止する。
	22年度の改善計画 公益上防除すべき松林を中心に防除していき被害拡大を防止する。		
22年度の改善結果 公益上防除すべき松林を中心に防除し、被害拡大を防止出来ている。			
市民(地域)や民間、他官庁との役割分担(市民との協働の視点などから考えられること) 国、県の補助を受け民有林を対象に事業を行なうため市で実施するのが妥当である。			
課長所見	自然環境、景観保全維持のためには、際限のない事業に思われるが、後先のコストがかからないように計画的に処理する必要がある。今後は、樹種転換事業を導入して効果を高める必要がある。		